

都市再生整備計画 フォローアップ報告書  
本厚木駅周辺地区

平成28年5月

神奈川県厚木市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4 - 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	歩行者通行量	人/日	26,018	27,300	28,346	確定		あり	29,071	H25年2月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	道路整備事業により、歩きやすさが向上するとともに、商業活性化イベント等の開催により、まちの魅力が向上し、歩行者通行量が増加していることは当該地区の活性化が進んでいると評価できる。
						見込み		なし					
指標2	コミュニティに対する意識	%	25	30	22	確定	x	あり	17	H26年1月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	地区全体としてのコミュニティに対する意識向上には繋がらなかったが、地域交流センターの整備によりコミュニティの場が創設され、多くの方に利用されている。当該地区については、引き続き都市再生整備計画事業を実施しており、公共施設最適化基本計画(厚木市策定)に基づく地域交流センターや情報板の整備を進めるなど、当該地区におけるにぎわいの再生及び地域コミュニティ向上を図る。
						見込み		なし					

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

様式4 - その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	安心安全に対する意識	%	/	/	41	確定	/	/	30	H26年1月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	評価値の測定に用いている市民意識調査は2年毎に実施しており、整備計画の最終年度である平成23年度に実施した調査結果では評価値が41%と従前値を大きく上回っていたが、フォローアップ時(平成25年度)の評価値は30%と前回から11ポイント減少している。これは、整備計画終了から2年が経過しており、指標に直接関係する事業が少なかったことが考えられるが、従前値は上回っており、一定の成果が得られている。
その他の数値指標2	新規施設(厚木南老人憩の家)の利用人数	人	0	/	7,197	確定	/	/	7,877	H23年4月~H24年3月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	指標2「コミュニティに対する意識」は目標値を達成することができなかったが、本計画で整備した地域交流センターの利用者数は、他施設の平均利用者数を大きく上回っており、新たな地域コミュニティの場として多くの地域住民に利用されていると評価できる。
その他の数値指標3	公園などの憩(活動・交流)の場が十分と感じる人の割合	%	-	/	55	確定	/	/	/	/		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	
						見込み							

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

## 2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	施設の適切な維持管理	市道や公園について、市民協働による美化活動を実施	市民協働による美化活動の実施により、環境美化への意識高揚や道路・公園への愛護意識、地域コミュニティの活性化が図られた。	市民協働による美化活動を持続させることにより、更なる地域コミュニティの活性化を図り、安心安全のまちづくりに繋げる。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	歩道における植栽帯設置の検討	歩行動線と景観面とのバランスを考慮し、地域住民の意見を聴きながら、植栽帯の設置を実施した。	植栽帯を設置したのみならず、道路環境の向上及び地域交流を目的として、地域住民による植栽事業や、市内大学の学生が授業で栽培した花を植栽する活動を実施したことにより、市民が道路を身近なものとしてとらえ、道路環境の向上に対する市民意識が芽生えている。	市民協働による植栽事業等を持続させることにより、更なる地域コミュニティの活性化、道路環境の向上、安心安全のまちづくりに繋げる。
	更なる地域への学校開放	地域と学校の結びつきを深めるため、保護者だけではなく地域の方々も授業や部活動の様子を見学できる「学校へ行こう週間」を実施した。また、地域の高齢者と子どもの交流を深めるため「世代間給食交流会」を実施した。	地域と学校との結びつきが深まるとともに、高齢者と子どもが交流することにより、高齢者からは「子どもたちと話す元気が出る。」との声が出るなど、地域への学校開放は一定の成果が得られている。	学校は、災害時の一時避難所となるなど、地域の拠点施設としての役割が大きく、地域への開放が望ましいことから、生徒の安全面に配慮しながら、学校との協力により、地域との交流を図る学校行事の継続的な開催を図る。
	中町花の公園の有効活用	「にぎわい爆発あつき国際大道芸」や市内大学生の企画によるキャンドルイベントを実施した。	市内外から多くの来街者が訪れ、中心市街地の賑わい創出に大きく寄与した。	継続的なイベント開催により、更なる中心市街地のにぎわい創出を図る。

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項